



「学びに向かう力」を育てる



教育庁指導部 義務教育指導課長 中嶋 富美代

校庭の木々の葉も、秋色に染まり始める季節となりました。各学校におかれましては、コロナ禍において、日々感染症対策に留意しながら子供たちの学習指導や心のケア等に御尽力いただいていることに、心から感謝申し上げます。

また、新たな都学力調査の実施に際しましては、御準備をお願いした中で一時中止とさせていただくことになり、先生方や子供たちに御迷惑をおかけしたことに、深くお詫び申し上げます。

先日、中学生の意見発表の会に出席する機会がありました。今年の発表内容は、共生社会の実現や障害者理解、生物多様性、SDGs、多様な性の在り方に関すること等、例年以上にテーマが多岐にわたっていました。コロナ禍で活動が制限される中、子供たちが様々な課題に対して当事者意識をもち、深く考え、社会の一員として積極的に解決策を考えていることを実感しました。その姿を大変頼もしく感じるとともに、先生方の御指導の下、発表者一人一人が深い学びを自ら進めていることを目の当たりにし、主体的に学ぶ力を育む重要性を再認識いたしました。

また、令和3年度全国学力・学習状況調査の結果分析では、新聞を読む回数が多い子供ほど、平均正答率が高くなるという相関関係が全教科で示されており、身の回りの出来事や社会の様々な問題に興味・関心をもち、関心をもち、改めて感じたところです。

新たな都学力調査は、「学びに向かう力」等の育成に焦点を当てています。「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」の状況については国の調査から見ることで、学習指導要領で育成を目指す三つの力をバランスよく育むための授業改善を各学校が進められるよう、役割分担を図ることを目指しています。

これからの社会がどんなに変化して予測困難になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動する力を子供たちに育みたい。そのために、調査を通して、子供たちが自分自身の学び方等を客観的に見つめ振り返る機会をもつことにより、平均点や順位等の他と比べる相対的な見方だけでなく、自分を基準とした見方で自己理解を深め、自分に合った学び方を模索し自己調整していく姿勢を子供たちが身に付けていくことを期待しています。

どうぞ、引き続き御協力いただきますよう、よろしくお願いたします。

掲載内容

- 「令和3年度 東京ジュニア科学塾」について
- 環境教育掲示用教材2号の補助資料について
- 児童・生徒の心のケアについて
- 「令和3年度 就学前教育カンファレンス」について
- 小・中学校の外国語指導の充実に向けて

東京都教育委員会のホームページ内「学びの支援サイト」

これまでに発行されたメール・マガジン「スクラム」は、こちらに掲載しています。



(URL https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/content/learning_support.html)

★ 本メール・マガジンの配信を希望する方は、件名に「メール・マガジン配信希望」、本文に所属・氏名を御入力いただき、S9000024@section.metro.tokyo.jp へメールを御送信ください。

「令和3年度 東京ジュニア科学塾」について

東京ジュニア科学塾は、都内の公立小学校6年生から公立中学校2年生までを対象※に、理数に関する専門家等から指導を受けることを通して、理数に関する興味や関心を更に高めることを目的に実施しています。本年度は全3回をオンラインで開催します。

※ 対象には、義務教育学校及び中等教育学校前期課程の該当学年と特別支援学校小学部・中学部の該当学年を含みます。

令和3年度 東京ジュニア科学塾(第1回)

令和3年 10月 24日(日曜日)午後2時から午後4時まで オンライン開催

<講演> 「Hayabusa2 Returns ~『はやぶさ2』が還ってきた~」

<講師> 元NEC航空宇宙システム株式会社 小笠原 雅弘 先生

2020年12月6日、小惑星探査機「はやぶさ2」が、小惑星「リュウグウ」の微粒子が入ったカプセルを地球に持ち帰りました。「はやぶさ2」が小惑星リュウグウから地球に戻るまで、約6年間の宇宙の旅。プロジェクトに深く関わった小笠原先生から、「はやぶさ」プロジェクトのことや宇宙調査のこれからについて、オンラインで講演を聞くことができます。

申込みについて

締切	令和3年10月8日(金曜日)17:00(ただし、定員に達し次第締切)	
定員	先着500名	
対象	都内公立小学校(6年生)、都内公立中学校(1・2年生) ※義務教育学校及び中等教育学校前期課程の該当学年 特別支援学校小学部・中学部の該当学年 オンラインでの聴講が可能な方のみ応募してください。	 ©JAXA
参加費	無料 ※ただし、通信費等は自己負担	
申込み方法	Eメールで次の内容を「S9000024@section.metro.tokyo.jp」に送信 件名：令和3年度 東京ジュニア科学塾(第1回)申込み ①参加する児童・生徒の氏名 ②ふりがな ③学校名と学年 ④Eメールアドレス ※受講を希望する児童・生徒は、保護者の了承を得てから、Eメールにより、申し込んでください。	
受講可否	令和3年10月15日(金曜日)までにEメールでお知らせ (「S9000024@section.metro.tokyo.jp」からのEメールを受信できるようにしてください。)	

今後の開催予定

回	開催日時	実施形態	内容	申込み
2	令和3年12月12日(日曜日) 14:00~16:00	オンライン	数学分野	10月中旬頃から開始
3	令和4年2月6日(日曜日) 14:00~16:00	オンライン	環境・再生エネルギー分野	12月上旬頃から開始



東京ジュニア科学塾のページのURLは、次のとおりです。

https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/content/junior_science_school.html

環境教育掲示用教材 2号の補助資料について

児童・生徒の持続可能な社会を構築していくための資質・能力の更なる育成を図ることを目的として、令和2年度に作成した環境教育掲示用教材2号の内容をより深めるための補助資料を作成し、電子データで配布及び東京都教育委員会のホームページに掲載をいたしました。

指導資料・ワークシートでは、一人1台端末を活用した授業展開を提案しています。また、補助資料を内容ごとに電子データで児童・生徒に配布できるよう、教材等も配布・掲載しております。

なお、環境教育掲示用教材3号の補助資料につきましても、今後、配布・掲載予定です。

○補助資料（例：中学校版）

これからも共に住み続けられる地球環境を考えよう

地球の生物多様性
 現在、地球上に多くの生物が暮らしています。その数は約3000万種と推定されています。これらの多くの種類の生物が互いに複雑な関係を築き、生物多様性を生み出しています。生物多様性が豊かになると、生物多様性は豊かになります。この豊かさを保つためには、生物多様性を生み出す環境を大切にすることが大切です。

オオカミ再導入～イエローストーン公園～
 1870年代にはアメリカ合衆国のワイオミング州のイエローストーン公園にオオカミがいました。しかし、人間の活動により、オオカミは絶滅してしまいました。その後、オオカミの個体数を回復させることを目的として、アメリカ合衆国にあるイエローストーン公園にオオカミが再導入されました。この再導入により、公園の生態系は回復し、生物多様性も回復しました。

生態系などに影響を及ぼす特定外来生物
 特定外来生物とは、生態系などに影響を及ぼす外来生物を指します。オオカミの再導入は、生態系に大きな影響を及ぼす可能性があります。オオカミの再導入は、生態系に大きな影響を及ぼす可能性があります。

これからも共に住み続けられる地球環境を
 人間が暮らすための環境を保護し、自然環境を保全することは、生物多様性を保護することにつながります。生物多様性を保護することは、人間が暮らすための環境を保護することにつながります。

○指導資料・ワークシート（例：中学校版）

「環境教育掲示用教材 2号」の補助資料の活用例

これからも共に住み続けられる地球環境を考えよう

指導資料
 指導資料は、授業展開の参考にしてください。授業展開の参考にしてください。

ワークシート
 ワークシートは、授業の振り返りや学習の成果を確認するために活用してください。授業の振り返りや学習の成果を確認するために活用してください。

年 組 名
 ① オオカミ再導入がイエローストーン公園の生態系に与える影響について考えよう
 ② 特定外来生物は、どんな被害を及ぼしているのでしょうか
 ③ これからも共に住み続けられる地球環境について考えよう

○教材（例：中学校版）

地球の生物多様性
 現在、地球上に多くの生物が暮らしています。その数は約3000万種と推定されています。これらの多くの種類の生物が互いに複雑な関係を築き、生物多様性を生み出しています。生物多様性が豊かになると、生物多様性は豊かになります。この豊かさを保つためには、生物多様性を生み出す環境を大切にすることが大切です。

生態系などに影響を及ぼす特定外来生物
 特定外来生物とは、生態系などに影響を及ぼす外来生物を指します。オオカミの再導入は、生態系に大きな影響を及ぼす可能性があります。オオカミの再導入は、生態系に大きな影響を及ぼす可能性があります。

オオカミ再導入～イエローストーン公園～
 1870年代にはアメリカ合衆国のワイオミング州のイエローストーン公園にオオカミがいました。しかし、人間の活動により、オオカミは絶滅してしまいました。その後、オオカミの個体数を回復させることを目的として、アメリカ合衆国にあるイエローストーン公園にオオカミが再導入されました。この再導入により、公園の生態系は回復し、生物多様性も回復しました。

これからも共に住み続けられる地球環境を
 人間が暮らすための環境を保護し、自然環境を保全することは、生物多様性を保護することにつながります。生物多様性を保護することは、人間が暮らすための環境を保護することにつながります。

○「環境教育掲示用教材及び補助資料」のページのURLは、次のとおりです。

<https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/content/environment/bulletin.html>



児童・生徒の心のケアについて

新型コロナウイルスは、現在、デルタ株への置き換わりが急速に進み、10代への感染も広がってきています。誰でも感染する可能性があることから、デルタ株の感染状況やその脅威を正しく理解させるとともに、仮に感染しても自分を責めたり、周囲の児童・生徒がそのことを非難したりすることがないように、改めて指導を徹底しましょう。



感染症に関するいじめ等について考える教材

漫画形式教材「相手の今を思うと…」 「まるでウイルスみたいに…」
 授業、家庭学習で、ぜひ御活用ください。（英語版等あり）



「令和3年度 就学前教育カンファレンス」について

東京都教育委員会では、就学前教育と小学校教育との円滑な接続及び就学前教育の重要性を、保育・教育関係者に広く啓発を図ることを目的として、年1回、就学前教育カンファレンスを開催しております。今年度は、7月16日（金曜日）に杉並公会堂大ホールにて開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、開催方法を参集型から動画配信へと変更しました。ここでは、動画の視聴方法及び内容について御紹介いたします。

小学校学習指導要領が全面実施となり2年目を迎えています。就学前教育と小学校教育との円滑な接続を図るために、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導の工夫を行うとともに、スタートカリキュラムを作成することが求められていますが、学校での取組状況はいかがでしょうか。

このような点からも、就学前施設の保育者の方はもちろんのこと、小学校の先生方にもぜひ御覧いただき、就学前教育と小学校教育との円滑な接続や就学前教育の重要性について理解を深めていただければと思います。

動画の視聴方法について

就学前教育カンファレンスの動画は、**東京都教育庁指導部義務教育指導課** **YouTube チャンネル**に掲載しています。



東京都教育庁指導部義務教育指導課 YouTube チャンネル URL

<https://www.youtube.com/channel/UC0dZqHZ8PVXmLFmMYKDBC4A/featured>

令和2年度の就学前教育カンファレンスの動画も、併せて掲載しています。



動画の内容について

今年度は、次の4本の動画を掲載しました。

① 東京都教育庁指導部義務教育指導課

「就学前教育と小学校教育との円滑な接続について」

就学前教育と小学校教育との
円滑な接続について

「就学前教育と小学校教育との円滑な接続」とはどのようなものか、どのようなことが求められているかを説明するとともに、就学前施設と小学校における子供の育ちの共有の仕方についても取り上げています。スタートカリキュラムについて、作成の際の留意点、PDCAサイクルを活用した改善など、児童の実態に即したスタートカリキュラムとすることの重要性を理解することができます。

② 荒川区教育委員会、荒川区立第七峡田小学校、荒川区立町屋幼稚園
実践報告「令和2年度における荒川区の取組について」

～幼小の一層の円滑な接続を図るための教育課程の研究・開発事業～

研究報告

「幼小の一層の円滑な接続を図るための教育課程の研究・開発事業」

令和2年度における
荒川区の取組について

荒川区教育委員会は、東京都教育委員会の指定を受け、幼小の一層の円滑な接続を図るための教育課程の研究・開発を進めており、本動画は令和2年度の取組の報告です。

荒川区内の町屋幼稚園と第七峡田小学校での幼小の接続について、「ななはけラボ」を活用した保育や授業による実践的な取組が分かります。

③ 福生市教育委員会
実践報告「幼保小の円滑な接続・連携の促進」

幼保小の円滑な接続・連携の促進



福生市教育委員会

福生市教育委員会は、東京都教育委員会の指定を受け、就学前教育と小学校教育の一層の充実に関する研究を進めています。本動画は、令和2年度の取組の報告です。

福生市における幼保小接続の現状把握と交流の改善を図る取組や、市内全就学前施設を対象とした調査（保育環境評価スケール（ECERS））の実施及び結果のフィードバックについて詳しく説明しています。

④ 講演「幼児教育からの学びをつなぐ」

講師 高知学園大学 高知学園短期大学 幼児保育学科 山下 文一 先生

令和3年度 就学前教育カンファレンス
－幼児教育からの学びをつなぐ－



高知学園大学 高知学園短期大学 幼児保育学科 山下 文一

内閣府子ども・子育て本部上席政策調査員でもある、高知学園大学教授 山下 文一 先生による講演です。

前半の約50分間は、国の動向を交えて、幼児期の教育と小学校教育の接続の必要性や、これからの教育の方向性や目指す資質・能力について説明しています。

後半の約35分間は、中央区立晴海幼稚園・月島第三小学校における幼小接続の実践事例を紹介し、接続に向けた指導の工夫について説明しています。

幼児教育からの学びを小学校へつなぐ意味や重要性についての理解を深めることができます。

東京都教育委員会ホームページ内の「就学前教育」のページには、就学前教育に関わる様々な指導資料や報告書等を掲載しておりますので、ぜひ御活用ください。

「就学前教育」のページのURLは、次のとおりです。

https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/content/pre_school_learning.html



小・中学校の外国語指導の充実に向けて

指導と評価の一体化に向けた取組について

「令和元年度英語教育実施状況調査」（文部科学省）の結果では、いわゆる「CAN-DO リスト」形式による学習到達目標の「達成状況を把握している」中学校の割合が **49.9%**にとどまっております。学習到達目標の達成状況の把握が課題となっています。以下のチェックリストを参考にしながら、指導と評価の一体化に向けた取組を進めていきましょう。

■ 指導と評価の一体化に向けたチェックリスト ■

1	外国語科の目標、五つの領域別の英語の目標を踏まえ、学年ごとの学習到達目標を「(英語を使って) ~できる」の形で設定している。	チェック <input type="checkbox"/>
2	学年ごとの学習到達目標を踏まえ、単元の目標を「(英語を使って) ~できる」の形で設定するとともに、児童・生徒と共有し、学習の見通しをもたせている。	チェック <input type="checkbox"/>
3	学年ごとの学習到達目標や単元の目標と、言語活動やパフォーマンステスト等で評価する内容に、つながりをもたせている(目標と評価に整合性がある。)	チェック <input type="checkbox"/>
4	言語活動やパフォーマンステスト等を実施することで、単元の目標や学年ごとの学習到達目標の達成状況を把握している。	チェック <input type="checkbox"/>
5	言語活動やパフォーマンステスト等で用いる語彙や表現を、必要に応じて単元、学期、学年を通じて繰り返し指導し、定着を図っている。	チェック <input type="checkbox"/>
6	言語活動やパフォーマンステスト等と同じ(又は類似した)活動に、単元の中で繰り返し取り組ませ、段階的に指導することで、目標の達成に向けて導いている。	チェック <input type="checkbox"/>

■ 学習到達目標に関する参考資料(文部科学省作成動画 YouTube mexchannel より) ■

【授業】
小学校の外国語教育はこう変わる! ⑧
～児童の意欲を高めるゴール設定の在り方～



【授業】
中学校の外国語教育はこう変わる! ③
～社会的な話題を聞いて、読んで、話す、書く～



外国語科における ICT の活用について

学習指導要領(平成29年告示)外国語では、ICTを活用し**言語活動の更なる充実、児童・生徒の興味・関心の喚起、指導・評価の効率化**を図るようにしています。以下の①～③に示す「教育・学習におけるICT活用の特性・強み」を踏まえながら、コミュニケーションを図る資質・能力を育成していくことが大切です。

■ 教育・学習における ICT 活用の特性・強み ■

- ① 多様で大量の情報の取扱い、容易な試行錯誤
- ② 時間的制約を超えた情報の蓄積、過程の可視化
- ③ 空間的制約を超えた相互かつ瞬時の情報の共有(双方向性)

■ ICT の活用に関する参考資料(文部科学省作成動画 YouTube mexchannel より) ■

○「外国語の指導におけるICTの活用について」解説動画 及び 資料集



解説動画へは
こちらから

資料集へは
こちらから



小・中学校の円滑な接続に向けて

参考となるリーフレット

小学校における学習を中学校において発展的に生かすためには、小・中の円滑な接続が必要です。各地区や学校の実態に応じて、**学習内容の共有、指導方法の共有、学習評価の方向性の共有**を進めていくことが必要です。

共有する「指導方法」には、**音声中心の指導、言語活動を通じた指導、気付きを促す指導、児童・生徒から引き出す指導**などがあります。詳細は、都内公立小・中学校全校に配布したリーフレット「**小学校と中学校の接続を意識した外国語指導の充実に向けて**」(東京都教育委員会 令和3年3月)を御覧ください。

